



以前、玉すだれという花を育てていることをお話したことがあります。ちなみに玉すだれの本当の名はゼフィランサス。その中の白花がタマスタレ。ピンクや赤紫、黄色の花もあるようです。ヒガンバナ科に属し、六月から十一月に開花します。境内の玉すだれは初夏に二、三輪開花し、初秋になり満開のタイミングがなんと三度も訪れ、何度も楽しませてくれるかわいい花です。二度目の満開の後、ふと針のような細い葉に目をやると黒い体に白い斑点のついているイモ虫がいっぱい。「これは黒アゲハの幼虫だ」と勝手に思い込み、とりあえずそのままにしていると、二、三日で葉がほとんどなくなり、インターネットを改めて調べてみると、なんとハマオモトヨトウという蛾の幼虫で玉すだれにとっては害虫だったのです(汗)。「こりや〜大変」と多量に割りばしとバケツを持って一ひきずつ取り竹やぶにポイ。どうか玉すだれ以外の葉を食べておくれ〜と思いつながら玉すだれを守ることに必死になっていました。やれやれ、これで今年は大丈夫かなと安心していたのもつかの間、十月に入り三度の満開の後(悪光通信を書いている本日)またもやイモ虫が大発生。蛾も子孫を増やす為に、イモ虫も成虫になる為に必死に生きていくことをつくづく感じた妙光でした。(イモ虫さんへ。どうか玉すだれを全部食べつくさないでね) やれ



ちよっぴり
早いですか
お年玉プレゼント
クイズです凡



◎十二月二十五日までに左のなぞ
などの答えと名前郵便番号
住所をハカキに書いて、正福寺へ
送って下さい。粗品をお贈りさせ
ていただきます 正福寺住所
〒710-0132 倉敷市藤戸天城56 正福寺
〒 お年玉クイズ係

問一 人間の心臓は一人につきあるもの
です。しかし二つも三つも持っている
人がいます。どんな人でしょう。

問二 国際会議の最中に突然
停電になりました。一番最初
に「電気を付けろ。」とさけ
んだのは、どこの国の人でしょう。

問三 空港に勤める大郎さんは
どんなことよりも身だしなみ
が大事。とても身だしなみに
厳しい人です。どんな仕事を
しているでしょう。

問四 一枚の紙を切り破ったり
せず十枚にするにはどうし
たらよいでしょう。



陽だまり法話

新家や分家の家庭には、仏壇がないところが多い。しかし、仏壇はご先祖さまを祀る場所だけではない。先祖代々信仰する宗派の御本尊（信仰の中心としてまつられている仏像など）を祀る場所でもある。どなたかが亡くなられた以外で仏壇を購入すると死者がでるとか縁起が悪いといわれたりもするらしいが、これらは根拠のない迷信である。逆に、仏壇にご本尊を祀り仏様に手を合わせ、敬いの気持ちを表し、家庭や家族の中心的な尊い場所を作っておくべきである。

お釈迦さまは、信心することでの私たちの心の変化を説いている。まず一番目の段階は、**当病平癒**や**商売繁盛**、**志望校合格**など、ご利益や諸願成就の為に信心する心。二番目の段階は、ご利益を求めるのではなく、信心は善いこと、功德を積むことだから信心する、という心。そして、信心による功德が、自らの言葉や行いに現れて、おのずから周囲の人を感化して自然に世間の人の心持ちが変わっていき世の中が安楽になる。世の中の人々も幸せになり、それが自らの幸せであり、喜びであると感じる心。これが最後の段階。信心の篤さはこの三段階で推し量ることが出来る。

仏壇を家庭に安置し信心する姿をお子さん、お孫さん、親類、友人などの記憶に刻み付けることは、違和感なく自然に手を合わせる心をはぐくむ。その時点ですでに二番目の段階に進んでいることとなります。「親の背を見て子は育つ」といふことですね。

★右のお話は、妙法蓮華經「信解品第四」より次のお経に関連しています。

「既益汝働 井塗定油 飲食充足 薦席厚暖 如是苦言 汝等勤作 又以軟語 若如我子」

『すでに汝が働（あた）を益（ま）しならびに足に油を塗り、飲食（おんじき）充足（じゅうそうそく）し薦席厚暖（せんじやくこうなん）せんにゃくこうなんならしめん』かくの如く苦言（くげん）すらく『汝まさに勤作（ごんさ）すべし』又もって軟語（なんじ）すびへ『若（なんじ）我が子の如くせん』

◎右のお経には、お釈迦さまが法話の中の一番目の方法で人々を導くことが説かれています。